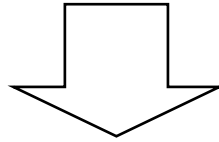


人権・平和・環境教育部会

I. 研究の概要

1. 研究課題

「共に生き、安心・安全で平和な社会を創り上げる力や持続可能な社会の実現を目指し、主体的に行動できる力を育むために、平和教育、人権・共生教育、環境教育はどうあるべきか。」



2. 研究内容

【研究内容1】

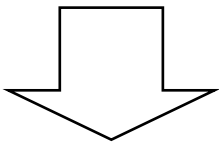
- ①どのように平和教育を位置付け、実践していくのか
- ・教科における平和教育の実践
 - ・教科外における平和教育の実践
 - ・平和都市宣言と平和教育の実践

【研究内容2】

- ②どのように人権・共生教育を位置付け、実践していくのか
- ・アイヌ民族 ・人権教育
 - ・男女共同参画
 - ・子どもの権利条約
 - ・バリアフリー
 - ・インクルージョン
 - ・ノーマライゼーション
 - ・福祉 ・少数民族
 - ・労働者の人権
 - ・しょうがい者の人権
 - ・LGBTQ+ ・主権者教育
 - ・ヤングケアラー

【研究内容3】

- ③SDGsの達成を目指して、主体的に行動できる子どもを育てるための環境教育
- ・エネルギー問題（エネルギーをみんなに、そしてクリーンに）
 - ・地球の環境（海の豊かさを守ろう・陸の豊かさを守ろう）
 - ・環境と健康（気候変動に具体的な対策を）
 - ・ゴミ問題（つくる責任、使う責任）
 - ・生命、自然の継続性



3. 研究方法

(1) 交流計画

- ・1ブロック開催として、研修センターにて、研究協議会を行う。
- ・事前にレポートを提出してもらい、9つの分科会に分かれて交流を行う。

(2) 研究協議会の交流内容・方法

- ・レポート交流を行い、自校へ環流する。

(3) 分科会構成

- ・発表者の人数を考え分科会を構成する。
- ・平和部会4グループ、共生部会2グループ、環境部会3グループ

II. 課題研究の経過と成果

1. 課題研究の経過

(1) 石教研主催研修会、部会役員研修会による研究経過

- 5月 8日 課題部会役員研修会① : 研修センター
研究計画の概要の確認, 実技研修会開催について, 研究協議会の持ち方について
- 5月27日 課題部会役員研修会② : 研修センター
実技研修会の内容について, 提出レポートについて
- 7月28日 理論研修会 : 研修センター
課題部会役員研修会③ : 研修センター
研究協議会当日の協議内容等の確認
- 9月 2日 石教研課題部会研究協議会
- 10月 6日 課題部会役員研修会④ : 研修センター
今年度の研究のまとめと次年度に向けて

(2) 部会役員研修会での研究成果

- 研究課題の明確化
- 実技・理論研修会のもち方, 内容の検討

2. 課題部会研究協議会の様子

レポート交流では, 実践報告, まとめは, 各校・各学年の教育課程の位置づけや昨年度の(9月以降)の実践報告, 今後実践する予定の指導案等について交流を行った。以下に交流内容を紹介する。

「平和教育」 について

- ・戦後80年となる今年, 例年以上に多くのレポートが寄せられた。4つのグループに分かれて, 全校で, 教科で, どのような取組をしているのか, どのような教材を使用しているのか等, 熱く議論が交わされた。
- ・国語科では戦争教材が少なくなっていたり, 学芸会では劇をやらなくなったり, なかなか平和教育を進める環境としては厳しい現状がある。そうした中で, 社会科の授業や, 読み聞かせ, 図書館司書と連携した平和図書コーナーの設置など, 工夫した実践が報告された。北広島市と江別市は, 市主催で平和の集いを行っているため, そこに向けて全校で折り鶴を作ったり, 集会を開いたりすることができ, 大変貴重な機会となっている。
- ・子どもたちは, ニュースを見る機会が少なく, 世の中の情勢をほとんど知らない。また, 「こわい, 苦しい」などと, 戦争教材に対し, 嫌悪感を持つ子どももいる。だが, そうした自ら知ろうとはしない子どもたちだからこそ, 知らせる必要がある。平和教育により, 共感する力・想像する力を育てていくことが大切であると改めて確認された。しかし, 「写真は見なくて(目をそらして)もいいよ」という配慮や, 絵本や漫画を使用するなどの工夫をしながら進める必要がある。

「人権・共生教育」
について

- ・私たちは、繰り返し子どもたちに「平和」について伝え、考えさせていくべきである。そのために、伝える私たち自身が知らなければならない。私たち自身が戦争の背景や構造について学びを深めたり、体験を聞いたり、現場に行ったりすることで、単なる記憶の継承ではなく、今が戦前とならないようにする平和教育へとつなげていく必要があると確認された。

- ・アイヌ民族、文化の学習、福祉における街づくり、しょうがい者の権利、インクルーシブ教育、性教育でのジェンダー平等教育、外国籍児童生徒や問題行動の多い生徒と歩む学級づくり、LGBTQ+当事者への対応、子どもの権利や主権者意識についてなど、今年度も多岐にわたる実践が報告された。

- ・江別第一中学校の実践（太田 剛次 教諭・小野寺俊博 教諭）
「江別市子どもが主役のまち宣言」に後押しされた、生徒主体の取組が報告された。校則の見直し、車いすの生徒が参加できる体育祭種目や練習の取組、文化祭の内容、職員会議での様子などについて質問意見が出され、具体的な工夫が交流された。

「環境教育」
について

- ・SDGsに関わる環境教育に取り組む場合、外部の講師に依頼する場合や企業と連携する事例が増えてきていると感じた。ユネスコスクールに指定されている学校では、ユネスコ協会の方による出前授業や、ユニクロによる「服のチカラプロジェクト」に取り組んでいる。Book of fのプログラムを利用し、循環型社会の学習を実施している学校もあった。また石狩市近辺の小学校では、道民の森で行われる宿泊学習や総合学習で、NPO法人当別エコロジカルコミュニティと連携し、自然に関わる学習を実施していた。特別支援学級のカリキュラムとして、学校農園活動を通して環境について学ぶ学校があった。ネズミやアライグマなど野生の生物による被害を防止することが大切になってきている。

- ・大きく分けて教科指導的側面と学校運営的側面からのレポート報告があった。教科指導的な内容としては、外来種であるセイウタンポポと在来種であるエゾタンポポを取り上げた実践、生産者、消費者、捕食者の役を決め、生物ピラミッドの様相を体験する実践、オフハウスやコープ、廃油回収業者アレフ、いしかり砂丘の風資料館等の出前授業の実践の紹介があった。また、学校運営的内容としては、学校生活におけるSDGsの活動をランドデザインに紐づけ、視覚化することで実践意欲と成就感を高める取組の紹介もあった。また、給食指導として、食の指導への取組や特別支援児童には、視覚的理解がしやすいようカードゲームを利用した取組、公園に行き実際に環境を見て、触って体験する実践など、様々な実践が交流された。

- ・栄養教諭の先生方からは、千歳では約9000食の給食を調理しているということで、調理で出た生ごみや、残食の処理を工夫しているという発表があった。恵庭では調理の段階でできるだけごみを出さないような工夫はできないかと

試行錯誤しており、野菜の皮を剥かずに調理するという方法を試している。皮が残ることにより、調理時間がかかってしまったり、口に残らないようにしたりするのに難しさを感じている。また、曜日によって残食の割合が違うなどの興味深い報告がされた。給食だけ取り上げても、自治体によって処理の方法が違い、どれもができるだけ環境に負荷をかけない方法で行われていることがわかった。

Ⅲ. 理論研修会

7月28日(火)、石狩教育研修センターにおいて、千歳市立支笏湖小学校 溪口正裕教諭を講師にお招きし、「いのちの笑顔プロジェクト ヒロシマの心を語り継ぐ～伝承～」と題して平和についての理論研修会を実施した。

講師の溪口教諭は広島県出身で、冒頭では写真や地図を交えながら、ご自身の幼少時からの話や平和記念公園、原爆ドームがもともとどのような場所であったのか、広島の街並みについてのお話から講演が始まった。

「多くの家族に突然、死が訪れたこと」「犠牲となった家族や人々には、それぞれの生活があったこと」「戦争の悲惨さ、むごさ」「広島風お好み焼きのルーツ」「広島平和記念公園の70cm下には当時の人々の生活があること」などたくさんのエピソードを通して、「戦争はぜったいにだめ」という重要なメッセージを伝えていただいた。

開催にあたり、講演の依頼を快諾してくださった溪口教諭に改めて感謝の意を表します。また、参加者の皆様からたくさん感想をいただきました。この場を借りて参加者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



Ⅳ. 部会研究の成果と課題

1. 成果

- ・限られた時間ではあったが「平和教育」「人権・共生教育」「環境教育」の重要性とさらなる広がりの可能性を共有することができた。共に生き、安心・安全で平和な社会を創り上げる力や持続可能な社会の実現を目指し、主体的に行動できる力を育むために、どのようなアプローチで児童・生徒と共に「平和教育」「人権・共生教育」「環境教育」を考えていけるか、ということが実践を通して具体的に示されており、部会員相互の実践につながった。
- ・今年度、石狩教育研修センターにおいて千歳市立支笏湖小学校の溪口正裕教諭を講師に招き「いのちの笑顔プロジェクト ヒロシマの心を語り継ぐ～伝承～」というテーマで理論研修会を実施した。戦後80年の今年にぴったりのテーマで、参加者の声からも、非常に有意義な研修になったことがうかがえた。
- ・次期研究も、これまで積み上げてきた実践、新しい取組を共有し、より良い実践を模索しながら情報共有と連携を図っていきたい。

2. 課題

- ・これらの実践が単発で終わらず、持続させていくことが重要である。学びの連続性を考えると「教育課程への位置づけ」が不可欠である。小中連携という観点でも、情報の共有や各校の連携した取組に期待したい。
- ・「平和教育」「人権・共生教育」「環境教育」にかかわる諸問題は、社会情勢を反映している。部会として常に社会情勢に目を向け、課題意識をもって取り組んでいく必要がある。
- ・2つの部会が合わさっての初年度となった。今年度の協議会をもとに、今後より良い部会運営について議論を進めていく必要がある。(理論研の持ち方、課題部会当日の内容、会場、駐車場など)



(文責 畑瀬 洵子)